令和４年度

事業報告

自　令和４年 ４ 月 １ 日
至　令和５年 ３ 月 31 日

社会福祉法人　入野福祉会

特別養護老人ホーム　大仙園

特別養護老人ホーム大仙園　事業報告

事業活動総括

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、入所者の生活様式は変容したままの一年でした。前年度から引き続きウイルスを持ち込まないよう、面会をお断りする措置を講じ、一方でウイルスを持ち込む可能性のある職員に注意喚起していましたが、9月にユニット型において15名（入所者10名、職員5名）の新型コロナウイルス感染症の罹患者が発生しました。
隔離対応の中で、入所者は自室での生活となり不安や苦痛の日々が続き、大変ご迷惑をかけてしまいました。担当職員も一日中隔離された状況の中、起こっている現状を目の当たりにし、精神的ストレスと疲労蓄積の2週間となり、感染症の脅威を痛感しました。このことに関しては職員一同深く反省しました。
コロナ禍であっても入所者の皆様が少しでも楽しく、喜びのある生活となるよう、コミュニケーション介護ロボット（パルロ）も導入し、一諸に歌を歌ったり体操をしたりと日々喜んでいただきました。
季節毎の行事もほぼ実行し、明るい環境創りに取り組み、笑顔を多くいただけたことが職員の励みにもなりました。

次に、居室稼働率の低下、（図1）入所者の入院期間の長期化による空床が目立ち、（図19）この空床を利用した短期入所もなく、併設の短期入所の稼働も全くなく介護報酬の低下を招いてしまい経営にもダメージを与えたことが実状です。
最近の入所者の動向としては、在宅生活からの入所ではなく、病院からの入所者が約8割を占め、ほとんどの入所者が複数の基礎疾患（持病）の治療後の身体障害、認知症高齢者が多く、基礎疾患の再燃により、病状悪化のリスクが高く入退院を繰り返す傾向があります。
短期入所者の受け入れもないことも理由の一つですが、在宅からの待機者の減少が明らかで、月平均2人のペースで退所されていますが、入所者は今期半ばより減少、平均居室稼働率が前年度の99、3％を下回り96.4％で推移しました。（図1）この状況を長引かすことのないよう、各関係機関とのとの連携を広げ空床解消に努めます。

そして、人材に関しては、外国人技能実習生が3名インドネシアに帰国しました。3年間の成長は、万里一空の精神で頑張り、介護技術を早々に取得し入所者も感謝されていました。
優秀な人材が退職したうえ、入職者が乏しい現状は介護現場に大きな痛手となっていることは明らかです。
しかし、介護ソフトを効率的に活用し、業務内容等の見直し、変更することで人材不足をカバーし、介護の質の低下を招かないよう取り組みます。

＜施設理念＞

特別養護老人ホーム大仙園は「笑顔のありがとう」をいただける「笑顔のあたりまえ」を基本理念として、日々の利用者の生活を支えます。

利用者とそのご家族の皆様から笑顔をいただけるよう「思いやりのこころ」で支援に努めます。

＜基本方針＞

1. 利用者の生活の質の向上を目指し、利用者やそのご家族に対してニーズの充足に応える。
2. 人材育成に取り組み、職員の知識、技術の向上及び業務の改善に努める。
3. 地域との連携を強化し、利用者はもとより地域における福祉の充実に貢献する

＜重点目標＞

1. 入所者のサービス向上

・施設理念に基づき、利用者が自分らしく生きることを支援します。
・介護を中心に多職種が連携し、利用者が安全で安心して過ごせる生活を提供する。
・利用者の個別性の理解を深めるとともに、個々に応じた目的のあるケアを実践する。
・利用者の身体的・精神的状態を把握し、協力病院と連携し疾病予防に努める。
・ICT の導入により業務の効率化を図り、利用者中心の支援を展開する。

2. 人材育成

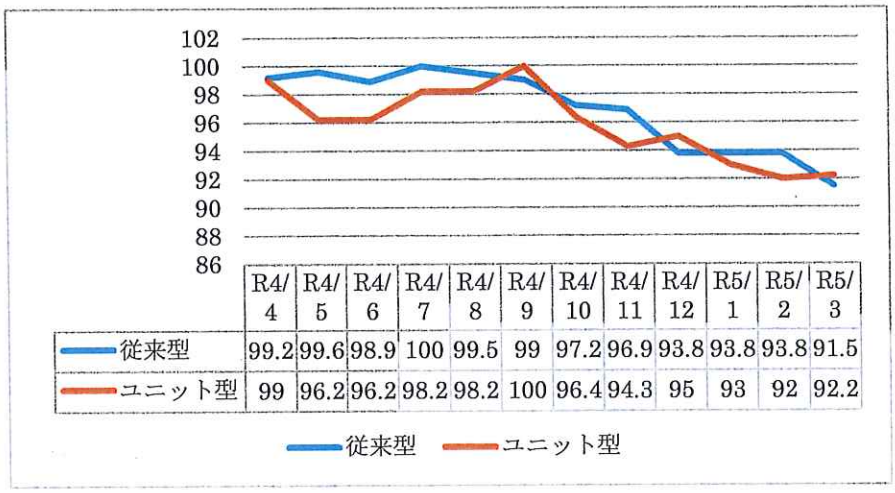
・各種委員会や研修会の積極的な参加を促し、専門性のある知識の習得や技術の向上に努める。
・自ら考えて行動する人材を育成する。
・中堅社員の育成と新たな組織体制の強化。
・統制のとれた組織運営を目指し、組織力とチーム力の向上を目指す。

3. 地域連携、医療連携

・地域の施設及び病院などとの連携を強化し、地域の期待に応えられる施設を目指します。
・地域のニーズに応える施設であるために、地域交流の拡大と地域福祉の充実に貢献する。

図　1

稼働率状況



	R4/4	R4/5	R4/6	R4/7	R4/8	R4/9	R4/10	R4/11	R4/12	R5/1	R5/2	R5/3
従来型	99.2	99.6	98.9	100	99.5	99	97.2	96.9	93.8	93.8	93.8	91.5
ユニット型	99	96.2	96.2	98.2	98.2	100	96.4	94.3	95	93	92	92.2

図　2

単位:人

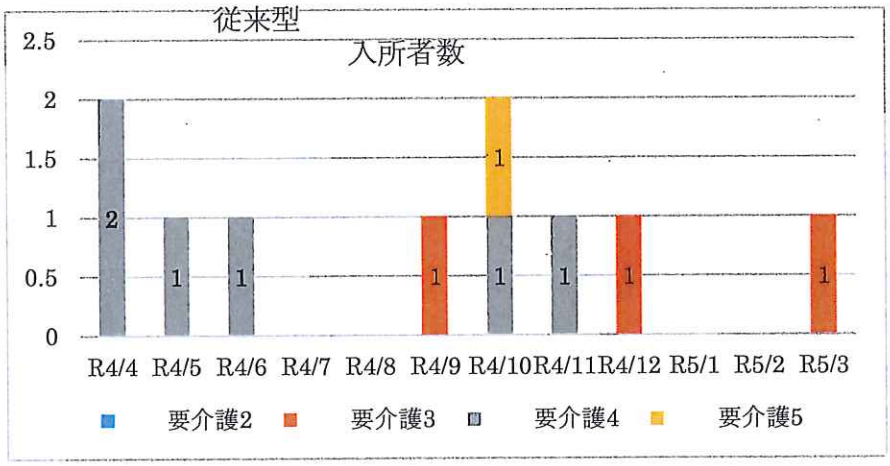


図　3

単位:人

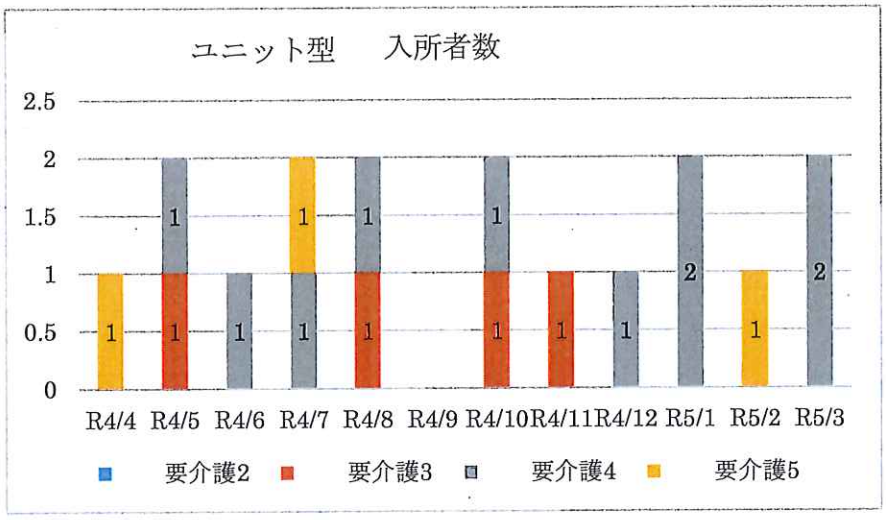


図　4　　単位:人

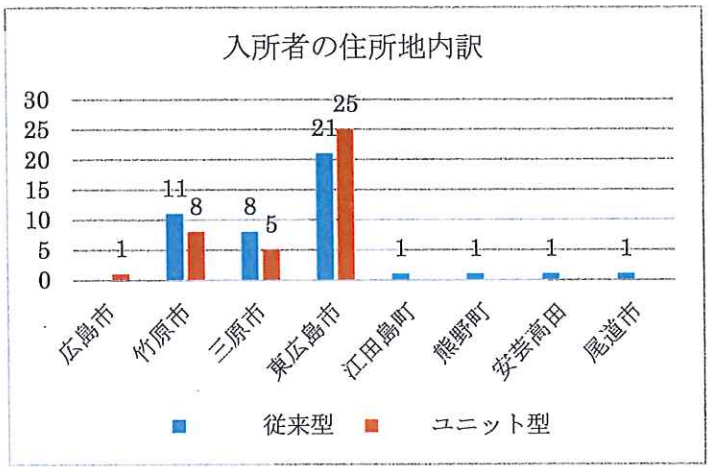


図　5

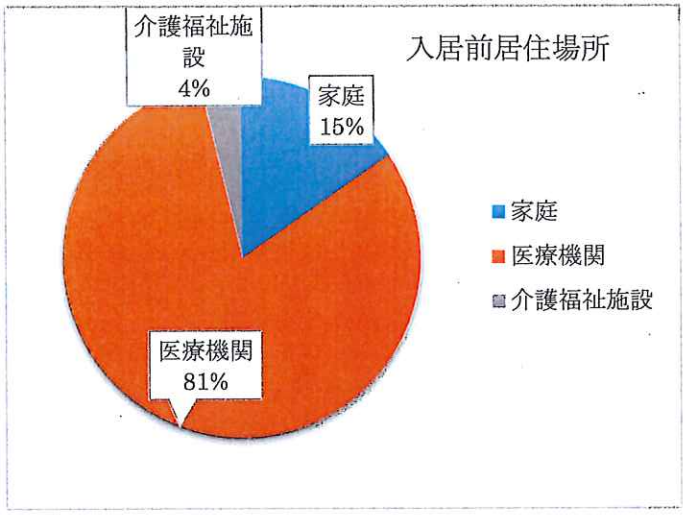
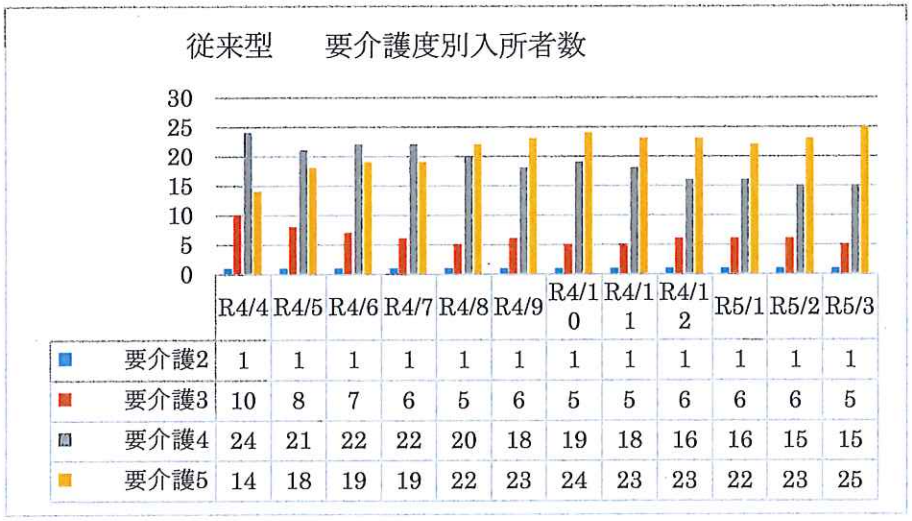


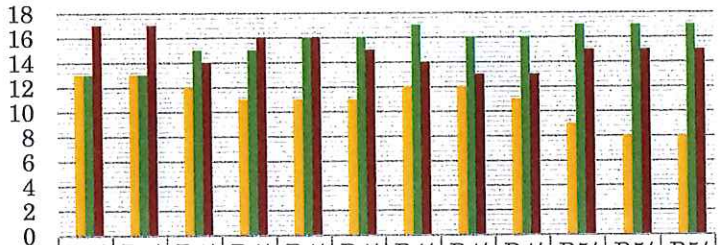
図　6　　単位:人



	R4/4	R4/5	R4/6	R4/7	R4/8	R4/9	R4/10	R4/11	R4/12	R5/1	R5/2	R5/3
要介護2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
要介護3	10	8	7	6	5	6	5	5	6	6	6	5
要介護4	24	21	22	22	20	18	19	18	16	16	15	15
要介護5	14	18	19	19	22	23	24	23	23	22	23	25

図　7　　単位:人

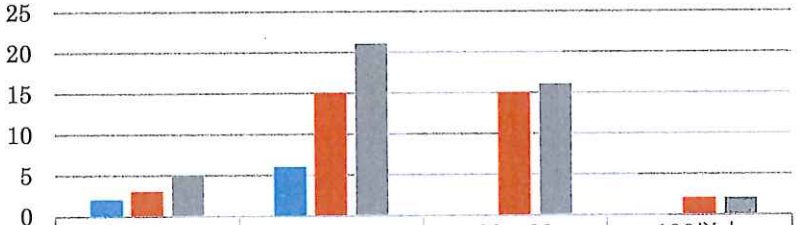
ユニット型　　要介護度別入所者数



	R4/4	R4/5	R4/6	R4/7	R4/8	R4/9	R4/10	R4/11	R4/12	R5/1	R5/2	R5/3
要介護2												
要介護3	13	13	12	11	11	11	12	12	11	9	8	8
要介護4	13	13	15	15	16	16	17	16	16	17	17	17
要介護5	17	17	14	16	16	15	14	13	13	15	15	15

図　8　　単位:人

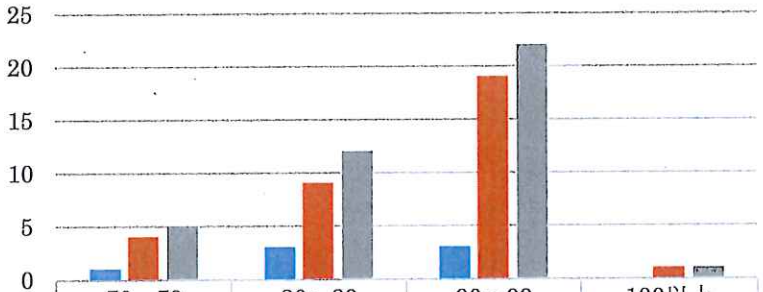
従来型　　性別・年齢別構成



	70～79	80～89	90～99	100以上
男	2	6		
女	3	15	15	2
合計	5	21	16	2

図　9　　単位:人

ユニット型　　性別・年齢別構成



	70～79	80～89	90～99	100以上
男	1	3	3	0
女	4	9	19	1
合計	5	12	22	1

図　10　　単位:人

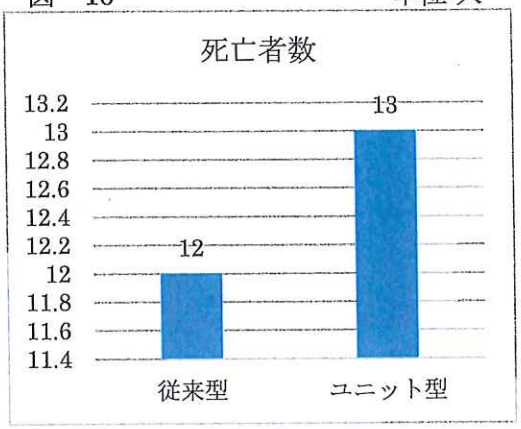


図　11　　単位:人

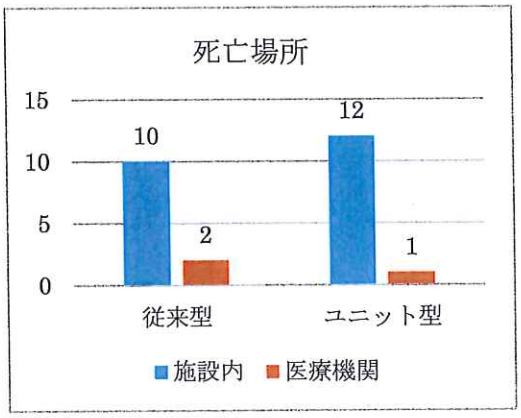


図　12　　単位:人

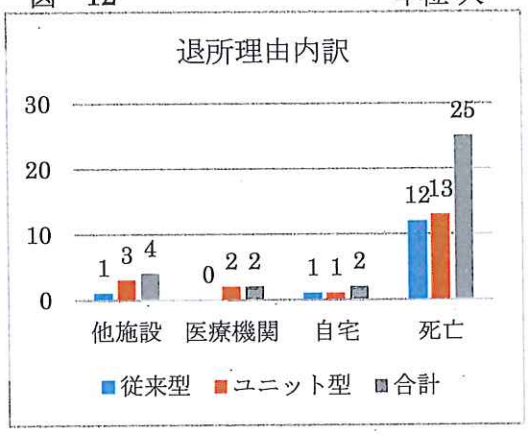
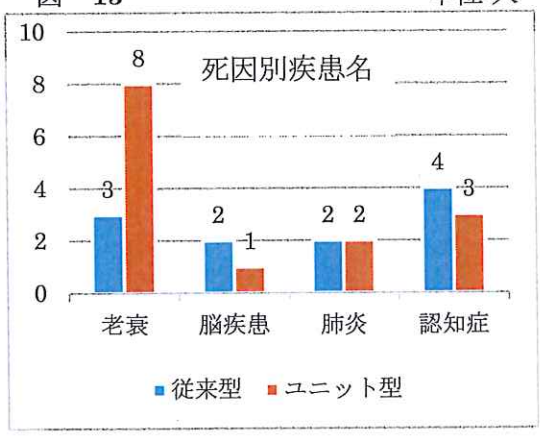


図　13　　単位:人



＜部門別事業計画＞

◇　介護サービス部門計画（従来型）

1. 「自分の仕事が何につながっているのか、どんな価値があるのか」という目的を明確に持ち、施設理念に沿ったケアを提供する。
2. 利用者に安心して生活して頂けるよう業務改善を行い、統一されたケアで支援を行う。
3. 他職種連携の支援を行い、利用者が安楽に過ごして頂けるようにする。

評価

介護ソフト導入により、業務の効率化は図れたが、効率化によってできた隙間時間を入所者のために有効活用することが充分にできなかった。今後は、リーダーを中心にチーム体制を整えることで業務改善を行い個別ケアに取り組むよう努めます。

感染症に関しては、現在までに従来型は感染発生が起こっていないが、目に見えないウイルスに対し、うがい、手洗いをはじめ換気や環境面の衛生にも気を配り今後も「持ち込まない」「広げない」と感染対策の基本を徹底していきます。

事故防止に関しては、重大事故は骨折の１件でした。事故、ヒヤリハット事案は週に

1回検討会を開催し予防策を打ち出しています。介護事故のリスクは避けられない場合がありますが、介護事故ゼロを目指し、施設内外の研修や職員行動のフィードバック、気付き、振り返り等による意識改善に努めるとともに介助用具の整備も怠らないよう安全への配慮を強く意識し、施設の安全配慮義務を遂行していきます。

◇ 介護サービス部門計画(ユニット型)

1. 利用者にとってその人らしい日々の生活を送ってもらえるように、本人の意向を尊重し個別ケアを実践していく。
2. 感染症を未然に防ぐ為に感染源の進入防止に重点を置くとともに、感染した際には感染拡大を防止する為の対策を実施していく。
3. 報告、連絡、相談を徹底し、いきいきとした働きやすい職場作りを行う為に、職員同士のコミュニケーションを重要視し、職員の質を向上していく。
4. 利用者の心身の状態に合わせ負担の掛からないような介護を行い、安全な環境作りを推進し事故予防に努める。

評価

職員人員が限られた時などは業務を優先してしまい、個別対応に応じられないことがあります。職員同士が連携し入所者が日々充実した生活が送れるよう、入所者の声を傾聴、受容し入所者の方との信頼関係を構築していけるように努めます。

感染症に関しては、新型コロナウイルス感染がまん延し、入所者、職員１５名が罹患され、多大なご迷惑をかけしまいました。今回の事案を教訓として、「持ち込まない、広げない、持ち出さない」ように感染症が流行しやすい時期には、日頃より標準予防策を徹底、実践し未然に防止するよう努めていきます。

介護ソフトウェアの導入に関しては、職員室ではなく各ユニット内で記録入力ができ、入所者に寄り添う時間が増えました。今後は、記録入力時間を短縮することにより、入所者に寄り添えるよう更なる効率化を図ります。

報告、連絡、相談の徹底に努めましたが、情報伝達の漏れが度々あることが現状です。他職種との連携を強化し、情報の共有を図り課題の早期解決ができるように努めていきます。

又、職員の質を向上していく為に、経験の浅い職員を中心に定期的に実技研修を開催しています。そして、外国人技能実習生に関しては、日本語の理解が難しい場面が多くあったため、業務を通じて日本語学習を行い職員、入所者とコミュニケーションが容易に図れるように強化していきます。

安全性の配慮に関しては、ヒヤリハット、事故報告書の事例を元に転倒リスクの高い入所者には、センサーマットの導入、巡回の強化等の適切な支援を行うように適時カンファレンスを行い統一した対応策を実践します。

【入浴状況】

図　14　　単位:人

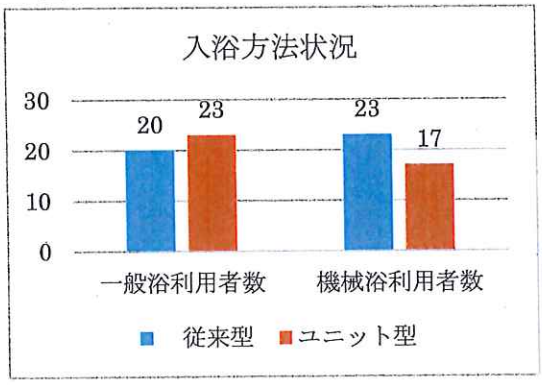
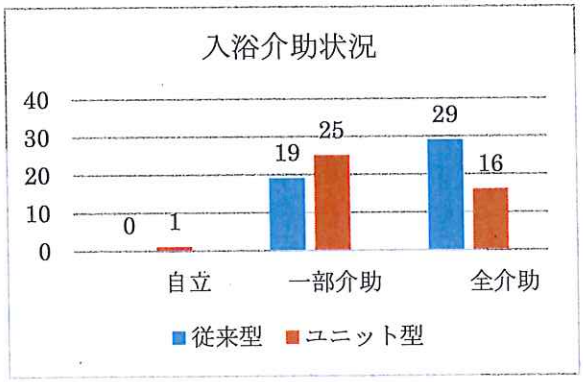
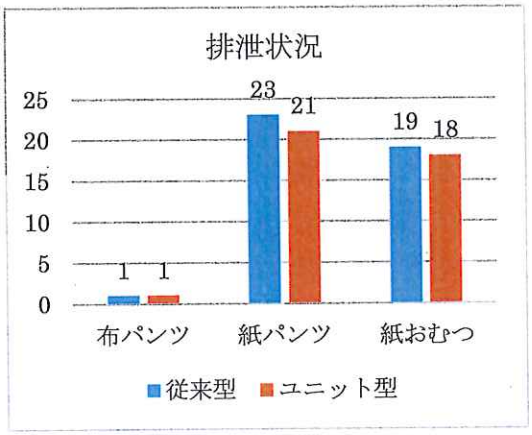


図　15　　単位:人



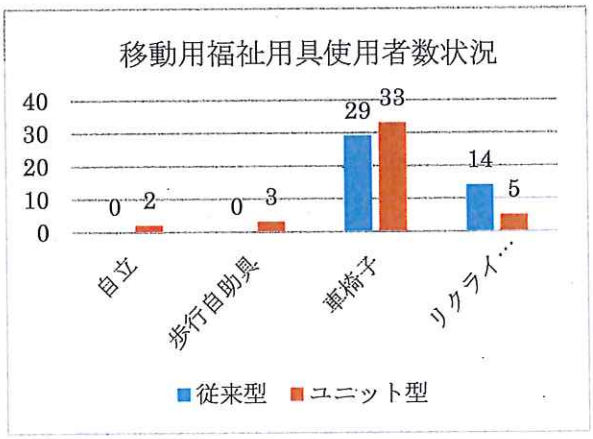
【排泄状況】

図　16　　単位:人



【移動用福祉用具使用状況】

図　17　　単位:人



◇　看護部門計画

1. 利用者が安定した生活が維持できるよう健康管理に努める。
2. 介護職員が安心安全な医療的ケアが実践できるよう医療的ケアマネジメント能力の維持をサポートする。
3. 看取り介護において看取り同意から最期の時まで、多職種協働で利用者とその家族が良かったと思えるような関わりを持つ。

評価

感染症対応では、毎日検温等バイタルサインの測定を行い異常の早期発見に努めましたが、今回新型コロナ感染症が発生しました。

インフルエンザウイルス感染はほとんどの場合発熱等の症状があります、新型コロナ感染症は無症状の場合が多く、今回無症状の職員より発生し入所者 15 名、職員 5 名の計 20 名が罹患されました。早期の感染予防対応を行い、保健所職員や、感染症認定師に現場の感染予防対応を確認してもらうなど蔓延予防に努め、2 週間で終息することができましたが残念なことに

1名が重症化し入院されました。感染症に関しては、日頃から注意喚起をし、発生時のシミュレーションを行い意識付けしてきましたが、実際の対応は想像以上に厳しい状況でした。感染を発生させないよう対応策を継続し、日々の観察を行うことで異常の早期発見に繋がるよう、今後も入所者の健康管理を継続していきます。

そして、前年度16名の入院者に比べ、今年度は21名と増加しました。入院期間も長期化、入院延べ日数589日となりました。複数の基礎疾患を持つ入所者は体調を崩されることが多いため、重症化しないよう日々の観察からアセスメントし、早期対応を心掛けます。

「看取り介護」に関しては、多職種の協力のもとご家族が満足していただけるよう取り組みました。施設内で最期を迎えられる入所者へ面会等ご家族との時間を持っていただけるよう早めの対応をすることで、ご家族にも喜んでいただきました。今後も入所者、ご家族に喜んでいただけるような関わりを持ち、「看取り介護」の満足度を高めてまいります。

図 18　　単位:人

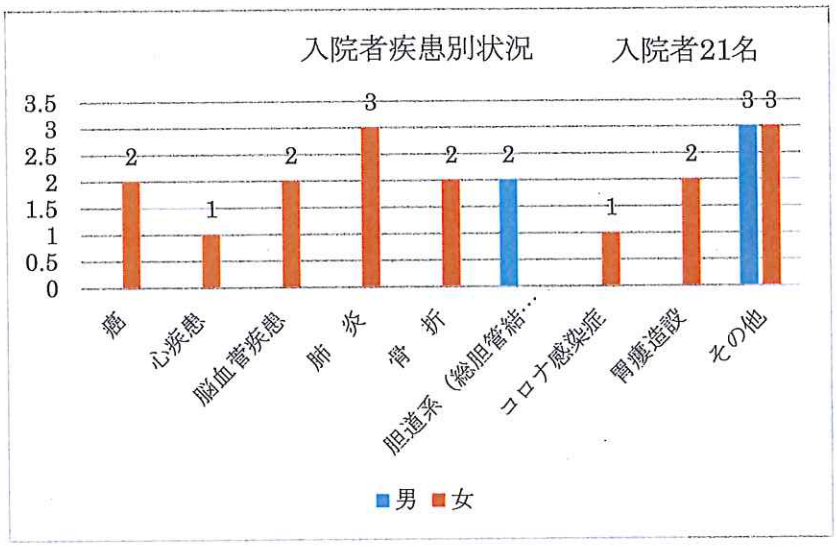
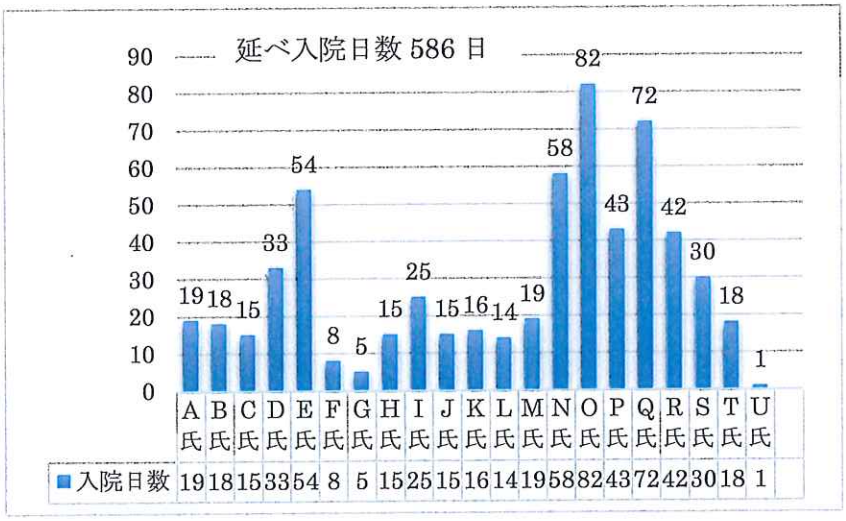


図 19　　単位:日数



【感染症罹患者数】

単位:人

感染症	ノロウイルス	インフルエンザ	新型コロナ
入所者	0	0	15
職　員	0	0	5

【予防接種者数】

単位:人

	インフルエンザ	新型コロナ(4回目)	オミクロン2価
入所者	88	81	80
職　員	50	49	42

【歯の健康ドクターによる口腔ケア実施者】

単位:人

従来型	25
ユニット型	24

◇ 機能訓練部門計画

1. 生活リハビリを重視して、残された活動能力が維持できるようアプローチする。
2. 他部門との協働の基で、自立支援を目指した訓練内容を実践する。
3. 理学療法機器(マイクロ波・ウォーターマッサージ等)を活用し、利用者の心身のリラックス効果を図る。

評価

日常生活において、残存機能が低下しないよう自身でできることは行ってもらいました。機能についての評価や改善点はカンファレンスなどで話し合いをし、生活の中での充実感を得ることができるよう関わりを持ちました。

介護ソフトウエァの情報共有により、入所者の状態の情報を共有する事ができ、変化があればそれに応じた訓練の変更等を行いました。

訓練士の不在時は、介護職員が協力し実施していたため訓練の継続が図れました。

機能訓練室に出向くのが億劫な方も多いので、興味を持っていただけるように声掛けをし、機器が移動できるものに関しては、ご本人の所に移動して行ってもらうよう活溌に取り組んでいます。

また、コミュニケーション介護ロボット（パルロ）の活躍で、歌やダンス、体操等を取り入れた身体機能や口腔体操も行い、皆さんが楽しく訓練できています。

次年度も身体機能の観察をしっかり行い、改善点は各部門のスタッフと話し合いながら個人に即した訓練内容により心身機能の維持に努めてまいります。

◇ 栄養サービス部門計画

1. 見た目にも楽しめる食事、旬の食材を使用し季節を感じて頂ける食事を提供する。
2. 食中毒を起こさない様、衛生管理の徹底を図る。
3. 介護や医療と連携し、低栄養状態を防げる様、体調や嗜好に合った食事の提供を目指す。

評価

季節行事の際は、同じ献立にならないように日清医療食品の栄養士と連携をとりました。旬の食材については日清の 50 周年記念企画でメロン、梨、苺等季節のフルーツが提供でき、見た目にもこだわったメニューを工夫し喜んでいただけたことが良かったです。

厨房内の清掃について、定期清掃は行われているが行届かない部分があり汚れが蓄積されていました。高圧洗浄機を購入していただき、蓄積された場所の清掃が用意に行え、今後も清潔な厨房を維持していくよう衛生管理に努めていきます。

栄養ケアマネジメントについては、入所者の低栄養等予防できるよう多職種と連携して食事量、食事形態の変更や栄養補助食品の提供を行うことで低栄養は改善できた入所者もおられました。

楽しみや喜びを感じていただける食事について、委託業者と協力し取り組みます。また、毎日入所者の食事状況を確認することで（ミールラウンド）食事状況の把握ができ栄養マネジメント、嗜好の把握につなげることができるため今後も継続します。

【低栄養リスク状況】

低栄養のリスクを把握するために、BMI、体重、血液データ、食事摂取量等により確認します。

以下の表を基準に、個人の栄養状況を確認し低栄養にならないようマネジメントします。

介護度が高くなるにつれてリスクが高まる傾向があることが確認できます。

リスク分類	低リスク	中リスク	高リスク
①BMI	18.5～29.9	18.5 未満	
②体重減少率	変化なし (減少３%未満)	１カ月に３～５%未満 ３カ月に３～7.5%未満 6カ月に３～10%未満	1カ月に5% 以上 .３カ月に7.5%以上 6カ月に10%以上
③血清アルブミン値	3.6g/dl 以上	3.0～3.5g/dl	3.0g/dl 未満
④食事摂取量	76%～100%	75%以下	
⑤栄養補給方法		経腸栄養法 静脈栄養法	
⑥褥瘡			褥瘡

図　20　　単位:人

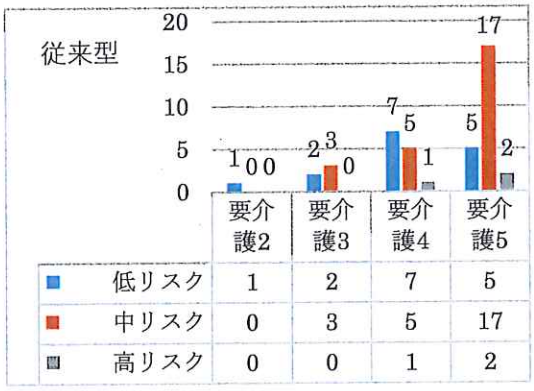
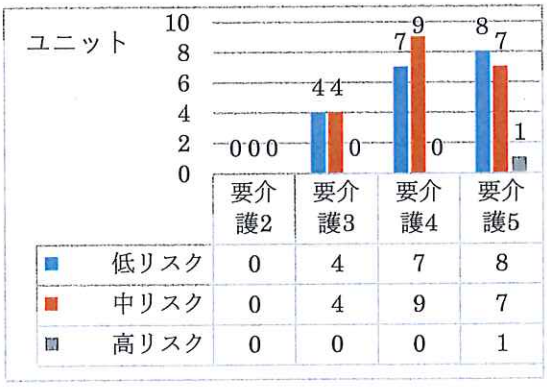


図　21　　単位:人



行事食

おせち料理

ひな祭り

お花見弁当

寿司バイキング

日清 50 周年記念ケーキ

七色そうめん

スイカ割

クリスマス会

行楽弁当

敬老会

日清医療食品の協力により，入所者の方々が喜んでいただける見た目にも楽しいメニューを提供しました。その他，誕生日会や定食の日，季節の食材なども提供しています。

色々おやつ

◇ 生活相談サービス部門計画

1. 利用者ならびにその家族への相談援助を通して、信頼していただけるよう相談技術向上に取組み、利用者満足度の向上に努力する。
2. 入所および退所が円滑に行われるよう待機者リストの整備を行い、待機者 50 名の確保と月1回の入所会議を計画的に取り組む。
3. 地域に役立つ施設を目指し相談窓口および介護相談等で頼って頂けるように取り組む。
4. 在宅生活をされておられる要介護者及びご家族の支援のために、居宅介護支援事業所及び医療機関との連携強化に取り組む。

評価

入所者にとって、全国的な新型コロナウイルスの感染拡大によって日常生活に多大な影響が生じ、本来のサービス提供に係る行動や活動範囲等にも制限を設けざるを得ない状況が続き、またご家族との面会や一時的な外出や外泊等も殆どできない状況でした。この中で、ご家族との意見交換や情報共有による関係性の構築が従前よりも希薄となりやすくなり、またご入所者の個々のニーズや要望については環境的に実現が困難なケースが生じ、こういった状況の下で満足感のある生活を実現していただけるために提供できる事は限りがあり、入所者にとっても職員にとっても精神的に辛酸を嘗めるような思いになる事は少なからず生じたように思われます。
また、待機者の確保については、各関係機関からの情報提供や問い合わせに対して真摯に対応し、速やかに入所申込まで繋がるように対応しましたが、絶対数の減少は否めない状況で、地域における総体的な需要と供給のバランスが均衡になりつつあるように思われます。今後はますます施設固有の魅力や、ストロングポイントをわかりやすく且つ効率的な方法で広報していくことに留意して、入所までの敷居が低く親しみを持ちやすい雰囲気を醸し出せるように、非言語コミュニケーションやインテーク技法（面談）についてもより質の高い技術を身に付けていく必要があります。いずれにしても、施設理念でもある「笑顔のありがとう」をいただける「笑顔のあたりまえ」の考え方が施設内だけで留まらず、各関係機関や地域からしっかりと認識されて、承認を得られるように、より一層精進していく必要があります。〃

◇ ケアマネジメント部門計画

1. ご利用者様の一人ひとりが施設生活において、人生の最期まで穏やかに満足度の高い生活が提供できるように、ご利用者様主体の最適なサービスが提供できるように、最善な方法を検討する。
2. 利用者様の自主自立した生活を構築する可能性を広げるため、解決すべき課題の把握に努めて、個々の自立した生活を目指していく中で、支障や不可能と感じる事柄について、介護サービスの提供により補えることで、より質が高い生活が継続できるように多職種が連携して対応に努める。

評価

入所者にとっての精神的な満足度や安心感等を得られる手段として、継続したご家族との時間の共有や、季節感を感じられるような外出等の重要且つ効果的と思われることについて、感染症の拡大などの社会的な事由により、このことが提供できない生活が継続していた中で、日常生活そのものが閉塞性が高く、個々の活性化が図りにくい状況でした。このような状況下の中で、施設として提供が可能なケアについて、施設スタッフ間で問題を共有しながら、より専門的な見地で、円滑且つ効果的に遂行できるように検討を重ねました。今後も社会情勢を鑑みながら、入所者にとって「必要なこと」と「実現可能なこと」は分別して考慮することなく、「必要な

ことは可能なこと」として捉えるようにしていくことで、より満足のいく施設生活が提供できるように取り組んでいきたい。

◇ 事務部門計画

1. 事務所内の個々の業務を見直し、事務業務の向上に努める。
2. 施設の顔として、明るい事務所づくりを目指し接遇向上を目指す。
3. 他部門と連携し、介護現場の支援を図る。
4. 職員の人材確保に努める。

評価

特養とケアハウスの担当制とし、それぞれの役割を果たすよう努めたが、担当分野以外は把握していないことが多く問題発生時にスムースな対応ができなかった。
施設全体の把握に努めていくよう努めます。
人材確保に関しては、ハローワークの求人はもちろん、派遣会社との関わりを持ち、今回派遣者を２名お願いしました。
入職希望者が少ない中で、次年度は今以上の活動をどのように行い人材確保につなげるかが課題です。

◇ 年間行事

評価

季節行事は、感染症対応により面会、外出は制限している中で、季節を感じていただけるよう縮小しながらも実行しました。
雛祭りの会では、綿菓子を提供すると、懐かしいと言われながら食べられる姿が見られました。
職員の手作りのお内裏様とお雛様のお面をかぶり、皆さんが主役気分でした。
クリスマス会では、サンタクロースも喜ばれましたが、カープの新井監督に扮した職員を観て入所者は大盛り上がりでした。入所者の方もカープファンが多いことにびっくりしました。
お花見では、満開に咲く桜を見て感動され、やはり日本といえば桜ですね。インドネシアからの実習生も実際に見る桜に感銘を受けていました。
お正月には、新年を祝う会としてお神酒を（ノンアルコール）皆さんに振る舞いました。お代わりをされほろ酔い気分で過ごされる等、食事も豪華なメニューを提供し楽しんでいただきました。

お花見

七夕

スイカ割

新年を祝う会

節分

ひな祭り

ひな祭りに綿菓子提供

寿司バイキング

交流会

餅つき

クリスマス会

◇各種委員会報告

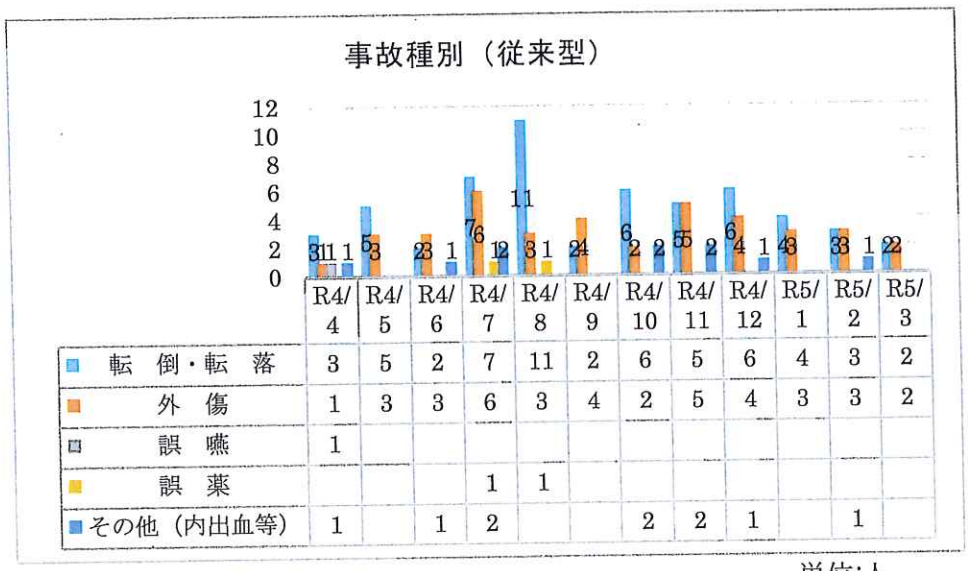
【安全対策・事故防止委員会】

評価

今年度の重大事故（骨折）は従来型１件、ユニット型１件であり、入所者の方には苦痛を与えてしましい、予防できたのではないかと悔やまれるばかりでした。今年度より、事故の危険レベルを入力することで事故の重大性が把握でき、ヒヤリハット・事故発生時には、発生状況、原因等を直ぐに取りまとめ、対応策を実践しました。さらに毎週月曜日に従来型、ユニット型それぞれ検討会を行い対策について相談しました。安全対策委員会、事故防止対策委員会では、ヒヤリハット・事故報告書を集計し、事故発生時の状況等を全職員に事案紹介、再検討を行う防止対策の意見交換の場を設けました。しかし、対策に対しての評価ができていないことや職員個々の危機意識が低い事から、同じ入所者の同じ事案があがり検討しただけの結果になることが何件かありました。次年度は、入所者の生活スタイル、細かな行動を把握し、事故発生原因を予見・想定すること、ヒヤリハットなどの気づきを増やすことで、重　大な事故にならないよう介護事故発生の未然防止につなげていきます。

図　22

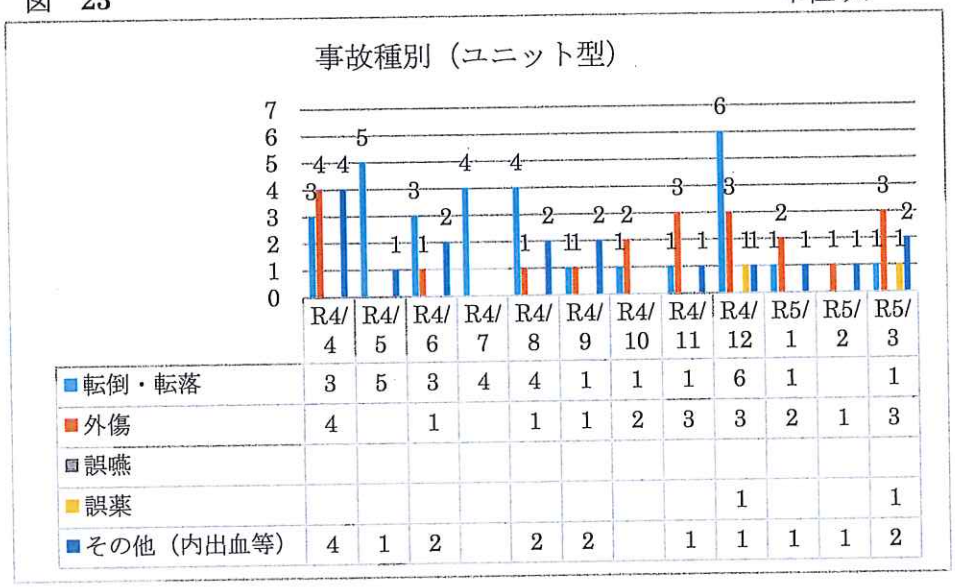
単位:人



	R4/4	R4/5	R4/6	R4/7	R4/8	R4/9	R4/10	R4/11	R4/12	R5/1	R5/2	R5/3
転　倒・転　落	3	5	2	7	11	2	6	5	6	4	3	2
外　傷	1	3	3	6	3	4	2	5	4	3	3	2
誤　嚥	1											
誤　薬				1	1							
その他（内出血等）	1		1	2			2	2	1		1	

図　23

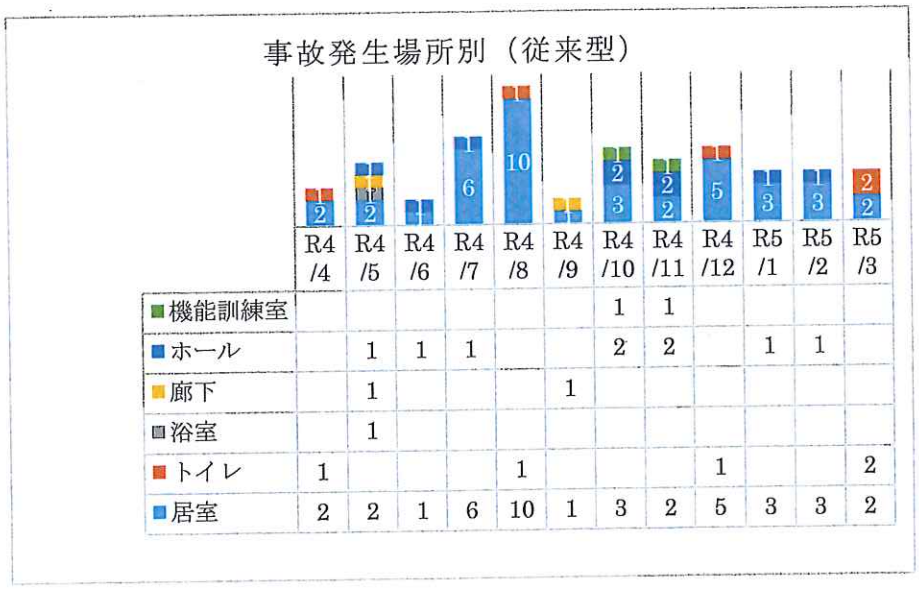
単位:人



	R4/4	R4/5	R4/6	R4/7	R4/8	R4/9	R4/10	R4/11	R4/12	R5/1	R5/2	R5/3
転倒・転落	3	5	3	4	4	1	1	1	6	1		1
外傷	4		1		1	1	2	3	3	2	1	3
誤嚥												
誤薬									1			1
その他（内出血等）	4	1	2		2	2		1	1	1	1	2

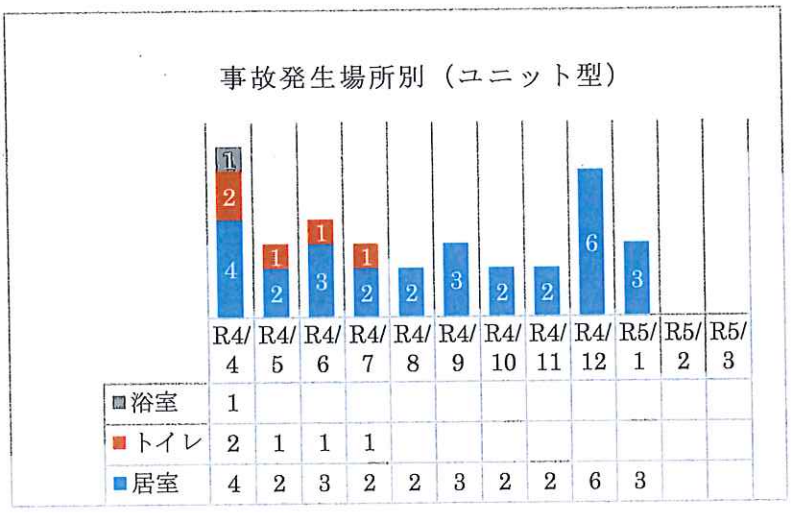
図　24

単位:人



	R4/4	R4/5	R4/6	R4/7	R4/8	R4/9	R4/10	R4/11	R4/12	R5/1	R5/2	R5/3
機能訓練室							1	1				
ホール		1	1	1			2	2		1	1	
廊下		1				1						
浴室		1										
トイレ	1				1				1			2
居室	2	2	1	6	10	1	3	2	5	3	3	2

図　25　　単位:人



【感染症委員会】

評価

感染症の防止について、年４回の委員会開催と年２回の研修会を開催しました。新型コロナウイルス感染症発生時のシミ ュレーションも行い、感染症についての知識・技術の向上に取り組みました。９月のコロナ感染症発生時にはこの取り組みが役立ち、早期に対応できたことは評価できると考えます。

入所者の健康管理においては、看護師が毎日検温を行い、職員の健康管理においては、自己管理を十分に行うよう各家庭内での感染対策の強化を中心に指導しました。感染対策グッズは、県、市等からの無料配布等の活用を行いながら自施設で追加整備してきました。感染グッズを使用することのないよう、次年度は日常の手洗い、手指消毒、換気、環境面の衛生を保つ等継続し感染症を発生させないよう努めます。

【身体拘束・虐待防止委員会】

評価

身体拘束は行われることはないのですが、虐待については、自身が自覚しない場合があるため虐待がなぜ起こるのか？等の原因、要因についても委員会内にて検討しました。職員の介護技術や精神面が及ぼす影響が大きいため、支援内容について注意し合える職場創りをする重要性についても理解し、入所者の人権擁護と一人ひとりの自立した日常生活を保障するためにケアの本質を検討し、今後も身体拘束ゼロ、虐待ゼロを念頭に入所者の生活を支援します。

【褥瘡対策委員会】

評価

各職員が褥瘡に関する知識を深め、褥瘡を作らないケアや早期発見できる力を身につけるよう、委員会、研修会、カンファレンスにおいて検討し知識や技術の向上を図るよう努めました。一人の入所者は入院治療をしていただきましたが、他の入所者は小さな褥瘡の発生はあるものの、数日で治癒されています。重度発生リスクを低減できるよう、ポジショニングや体位交換、適切な介護用品の選択等の予防策を、多種職で検討し早期治癒へ向けて支援していきます。